# 水明インターネット句会（選句・選評）　令和六年十二月

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | ノルン<br>きいち<br>月を | 小春日の小石の響き神御わす<br>小石の響きに神様はきっと気付かれるでしょう。アニミズムでしょうか。 | 洋龍山 |
| 2 | たか | 一本の傘や二人の冬の雨<br>二人は恋人同士であろうか？　冬雨の中、身を寄せ合うって歩く姿は絵になっています。 | 傘張り浪人 |
| 3 | | 僕の恋彼女の手花火共に落ち | 川鉄 |
| 4 | 高原 | 紅葉より会話が燃える同窓生 | 明陶家 |
| 5 | | 目陰して見る一輪の返り花 | 衛 |
| 6 | | 目指す先大分外れり芒原 | 幸子 |
| 7 | ひろ志 | 直売の幟ゆらゆら冬日和<br>中七「幟ゆらゆら」が、きご「冬日和」に釣り合う。 | 桧鼻ことは |
| 8 | | 帰りみち町中ただようおでんの香 | 宇田靖之 |
| 9 | 風子<br>土璃 | 一羽来て一羽飛立つ寒鴉<br>寒気と荒涼の中の鴉の孤独、況や人間は。 | 森　佳月 |
| 10 | 俳爺<br>素風<br>蝸牛 | 荒磯に割れて砕ける寒怒涛<br>冬の怒涛の様子を的確に詠めている。実朝公の「大海の・・・」の歌が想起される。雄大な風景が見える。 | 破れ蓮 |
| 11 | | 着ぶくれて大歳時記とにらめっこ | 富沢恵 |
| 12 | 誠<br>佳月<br>マスミ<br>六弦 | 江ノ電の正面で待つ冬の富士<br>正面で待つが良かったと思う。正面で待つが良いですね。江ノ電は何時乗っても楽しい。特に冬は空が澄んでいて真っ白に。中七の表現がいいですね。 | 新井のり子 |
| 13 | 一駄歩<br>あらか<br>絵夢 | 編み物の形に眠る小春かな<br>編物中に居眠りをしたのでしょうが、それを「編み物の形に眠る」と表現してあるところが興味深いと思いました。編むのは、セーターか、うつらうつら・・・ | ありぎりす |
| 14 | 梗舟 | 菊人形微笑み迎える無人駅<br>無人駅でも菊人形が暖かく出迎えてくれます。 | 長吾 |
| 15 | 大越<br>しんい<br>暦文<br>一葉<br>蝸牛<br>かげろう | 陽の温みたんと溜め込む干蒲団<br>気持ち良さと幸せ感に共感。ふっくらの蒲團でグッスリ。内容は平凡だが、無駄のない的確な表現。温かそうな蒲団がイメージされる。干した布団の温かさは何にも代えがたい。 | 松田素風 |

# 水明インターネット句会（選句・選評）　令和六年十二月

| | | | |
|---|---|---|---|
| 16 | 群青の空に冴えるや脆き月 | | 雪待月田猫 |
| 17 | 愛日や素読教へし父のこと | | 網野月を |
| 18 | 寺を出て寺への道の散紅葉 | | 大束暮風 |
| 19 | 大川の波を褥に浮寝鳥<br>浮寝鳥の様子を端的に詠めている。川面に漂う水鳥が見える。「波を褥に」という措辞が巧みである。大都会の中を流れる大川。その街騒を気にすることもなく、波に身を任せて漂う浮寝鳥。そのゆとりが羨ましい。 | 俳爺<br>破れ蓮<br>素風<br>マスミ | 安田蝸牛 |
| 20 | 虎落笛どこもかしこも太鼓持<br>核の廃絶を全人類のいにしたいものです。 | ひろ志 | 秋谷風舎 |
| 21 | 冬の月掬って覗く露天風呂<br>熱いものと冷たいものとのバランスがいいですね。澄み切った冬空に浮かぶ月を手に取り暖かい露天風呂に入るのでしょう。露天風呂に映る冬の月、鋭く美しい。つい掬ってみたくなる気持ち分かる。 | ノルン<br>春水<br>梗舟<br>マスミ | 一駄歩 |
| 22 | 影絵めく枯蟷螂や化粧坂（けはひざか<br>螳螂のモノトーンと化粧の二文字から連想されるカラフルさとの対比が美しいと思いました。景が見えてきますね。か行の連続が効いてます。 | 大越<br>あらか<br>六弦 | 光雲2 |
| 23 | 古書ひらき栞に沁むる冬銀河 | | 蒼井憧憬 |
| 24 | 復興の能登に棲みつく隙間風<br>棲みつく隙間風が良かったと思う。復興の大変さを上手く表した季語ですね。 | 誠<br>梗舟 | 新　暦文 |
| 25 | 速贄や冷たき雨に天仰ぎ | | 山川充 |
| 26 | 語り部は上州訛り空っ風 | ひろし | ひろ志 |
| 27 | 風呂屋閉め当主一代帰り花 | | 和田イチ子 |
| 28 | 唐松の散り初む山家そば啜り<br>訛りのある語り部は何となく親しみを感じる。季語が合っている。 | 朝香 | いさむ |
| 29 | 銭湯の古き煙突クリスマス<br>クリスマスを一家で銭湯で過ごすという細やかな贅沢。昭和のレトロな煙突とクリスマス、サンタの夢に繋がる。このアンバランスが面白い。孤独感が伝わる。 | 風子<br>ひろ志<br>凡士<br>のり子 | かれん |
| 30 | カウンターにママのおでんと二人酒 | 浪人 | しーしー |

# 水明インターネット句会（選句・選評）　令和六年十二月

| | | | |
|---|---|---|---|
| 31 | | どっちにも出たい出たいよ忘年会 | 青木鶴城 |
| 32 | | 奥入瀬の高鳴る瀬音紅葉散る | しんい |
| 33 | | 菜園におかみ踏ん張る大根引き | 高原ひろし |
| 34 | 総太郎<br>憧憬<br>瞳人 | そのなかに縁切りの絵馬冬紅葉<br>そのなかにとは多数の絵馬の中にということでしょうか。ストーカーなどがいたら縁切りの絵馬も必要なのでしょうね。師走によくよくのこと。 | くるみ |
| 35 | | 着ぶくれて無聊の四股を踏んでゐる | 岩本夛来 |
| 36 | | 銀紙の藷埋めをり落葉焚 | 森下山菜 |
| 37 | | 山辺の風に仕上がるべつたらは | 大越マーガレット |
| 38 | | 黒猫も祈る路地裏クリスマス | 松橋春水 |
| 39 | ひろし<br>ことは<br>佳月<br>のり子<br>順一 | かみ合はぬ話にマスク外しけり<br>マスクを外すという所作が語ること多しですね。マスクをすると顔の表情もわからないので、こういうことありますね。孤独感が伝わる。何か論争が起こりそうな雰囲気。「マスク」と言う季語の使い方が上手いと思いました。 | 俳爺 |
| 40 | 俳爺 | 厳冬の怒濤逆巻く佐渡の沖<br>冬の佐渡の海の厳しさを詠めている。 | 後藤允孝 |
| 41 | 山菜<br>かれん | クリスマス絵本飛び出る夢の国<br>飛び出る絵本か、あったあった。まさに夢の国でした。少し甘いような感じもするが、とても夢がある感じでクリスマスに合う。 | 龍野ひろし |
| 42 | | ドキュメンタリー心に沁むや月冴ゆる | 朝香 |
| 43 | 絵夢 | ご近所に銀杏落葉のお裾分け<br>遠慮したいお裾分け。 | 総太郎 |
| 44 | 大越<br>しんい<br>風子<br>允孝<br>ひでこ | 百歳へちよいと道草日向ぼこ<br>今は百歳までの道草なんだと思えました。余裕ありありの中七がいい。この余裕が羨ましい。面白味のある俳句ですね。このような句は好きですね。　百歳に近づいているのにこのユーモアと余裕。日向ぼこの季語が良い | 荒一葉 |
| 45 | 凡士 | 年の夜テネシーワルツ目を閉じて<br>除夜の鐘ならぬテネシーワルツ、三段切れながらいいですね！ | 瞳人 |

# 水明インターネット句会（選句・選評）　令和六年十二月

| | | | |
|---|---|---|---|
| 46 | 音思 | 河豚鍋の次はカラオケひばり節<br>展開の良い句、なかなかこうは詠めないと思います。 | 染谷風子 |
| 47 | | 早起きを誓へど寝坊松の内 | 立野音思 |
| 48 | | 冬うららパスタランチにシャンパンを | 岩清水彩香 |
| 49 | | 冬三日月衣は十重におしら様 | 小林土璃 |
| 50 | | 冬ざれや遠吠えの果て鈍色に | 米山誠 |
| 51 | | 虎落笛切れ切れに聞く祖父の声 | みづる |
| 52 | | 鳴き合ふは丹頂鶴の番かな | 平野楽 |
| 53 | しーしー | ねんねこに埋もるる髪にリボンあり<br>赤ちゃんのリボンか？、負っている人のリボンかな？。 | ノルン |
| 54 | | 美味なるも箸に儚きてっさかな | 酒井癒香 |
| 55 | | 老いて又柚子湯につかる旅の宿 | 岡本たか子 |
| 56 | 山菜<br>田猫<br>霜里<br>癒香<br>みづる | 炬燵へと猫入る猫入る猫這入る<br>「ネコイルネコイルネコハイル」。俳句は音楽！多頭飼いの猫の愛らしい姿をリズミカルに詠んだ句。猫たちの微笑ましい様子と言葉のリズムが楽しいですね。面白さとリズム感が良い。ユーモラスなリフレインでリズム良く明確に映像が浮かぶ。 | 横井あらか |
| 57 | たか<br>ひでこ<br>幹子 | 焼き牡蠣やレモン醤油をひと垂らし<br>食いしん坊にはたまらない。涎がでそうだ。面白い句であります。美味しそうな句。よだれが出そうです。とても美味しそうな句でした。下五のひとたらしがいいと思いました。 | かげろう |
| 58 | 夛来<br>一駄歩<br>みづる | 世を外れ眺める街の師走かな<br>こんな境地に、同感です。クリスマス、忘年会、年用意など師走の慌ただしさに振り回される世の中を離れた立場から客観的に見ている。 | 霜里 |
| 59 | 浪人<br>ひろし | 女傘持つ手重ねて初時雨 | 渋谷きいち |
| 60 | 田猫<br>きいち<br>暮風 | 酒蔵はしづかに発酵山眠る<br>季語が絶妙。育まれる老舗の味と冬景色。映像が美しい句。季語山眠ると静かに発酵の取り合わせが良い。 | 河野凡士 |

# 水明インターネット句会（選句・選評）　令和六年十二月

| | | | |
|---|---|---|---|
| 61 | 田猫 | 千上がりし漁港の先に波の花<br>能登への想い。季語が冬の厳しさを際立たせる句。 | 岡崎梗舟 |
| 62 | | 山茶花やひだまりの孫じい誘う | 寒立馬 |
| 63 | | 初詣風も華やぐ姿かな | 絵夢 |
| 64 | 土璃 | 胎児のごと媼を包（くる）む干布団 | 丸山マスミ |
| 65 | | 開戦日下校のチャイム流れくる | ひでこ |
| 66 | | 国道の歩道橋より問ふ師走 | 石関六弦 |
| 67 | 彩香 | 山頂の大仏抱き冬落暉<br>青森の昭和大仏が浮かび、大自然の中の神々しさが、中七と下五の末の「き」のリフレインで増幅されている。 | 佐藤幹子 |
| 68 | のり子 | クリスマス又精神科侘し冬<br>孤独感が伝わる。 | 川口聡美 |
| 69 | | 冬木の実食べに来ぬ鳥木へ帰る | 石川順一 |
| 70 | | コーラの泡さつと消えて憂国忌 | 傘張り浪人 |
| 71 | | 『お帰りは』母の笑顔と焼きリンゴ | 洋龍山 |
| 72 | | 秋晴れの風の声また断末魔 | 川鉄 |
| 73 | あらか | 句の道に何度も挫折去年今年<br>禁煙に関するマーク・トウエインの名言を連想しました。 | 衛 |
| 74 | しんい | あざやかさ床に映して紅葉寺<br>宝徳寺の床紅葉を見ましたが、京都もいいでしょうね。 | 明陶家 |
| 75 | | 真ん中を歩く畦道小春空 | 桧鼻ことは |

# 水明インターネット句会（選句・選評）　令和六年十二月

| | | | |
|---|---|---|---|
| 76 | 瞳人<br>風舎 | 日向ぼこ一刻無我になりてをり<br>ありますね、そういうこと。日向ぼこして、無我になること、作者を見習いたい。 | 幸子 |
| 77 | 暦文<br>憧憬<br>きいち<br>しーしー | どの角で手を放そうか寒昴<br>意味深。手を離すの措辞が良い。初デートを思い出す。なにやら意味深長、艶っぽい話しか？。 | 森　佳月 |
| 78 | | 厳寒の海峡往くゆりかもめ | 宇田靖之 |
| 79 | 夛来<br>浪人<br>ことは<br>みづる | 短日や灯りつければ夜になる<br>灯りをつけるから夜に、とは絶妙です。逆説的な物言いに俳諧味を感じます。冬の日暮は早く部屋を灯すともう即、夜。だがその分家の温かさ、心地良さが一段と染みてくる。 | ありぎりす |
| 80 | 素風<br>蝸牛 | 北吹きて波に隠るる島の影<br>荒海に見え隠れする島影が表現されている。「波に隠るる島」の景が大きい。 | 破れ蓮 |
| 81 | | 着ぶくれて言葉少なに異国人 | 新井のり子 |
| 82 | | 枇杷の花いつか出会った人に会う | 富沢恵 |
| 83 | 破れ蓮 | 仕残せる事多くして暮早し<br>気忙しい歳末の雰囲気が表現されている。 | 松田素風 |
| 84 | 絵夢 | 爽やかに園児が真似る盗塁技<br>翔タイム！本塁打は、まだ無理かな！ | 長吾 |
| 85 | 山菜 | 家族四人の押し競饅頭足日かな<br>暖房がないので家族でおしくら饅頭をしているという満ち足りた一日。いいぞいいぞ！ | 網野月を |
| 86 | 恵 | 鈴きこゆ人形と寝る聖夜かな<br>不思議な感じがした。幸せなクリスマスの情景のようでありながら人形の孤独、人の孤独を感じさせる。 | 雪待月田猫 |
| 87 | 破れ蓮<br>一葉<br>総太郎<br>霜里<br>幹子 | 抗議めく妻は黙（もだ）して毛糸編む<br>季語「毛糸編む」が効いている。景がよく見える。編み棒のカチカチいう音がうっすらと怖いような。この気持ちよくわかります。私もこのような経験あります。 | 安田蝸牛 |
| 88 | | 楽園の短日哀し妻の留守 | 秋谷風舎 |
| 89 | | 冬木立胸の中まで風通る | 大束暮風 |
| 90 | 土璃<br>かれん | ガウディの尖塔に射す冬三日月<br>ガウディのどこまでも突き出ている尖塔にかかる三日月が印象的。 | 光雲2 |

# 水明インターネット句会（選句・選評）　令和六年十二月

| | | | |
|---|---|---|---|
| 91 | 総太郎 月を | 幼な子の沈めて遊ぶ柚子の風呂<br>柚子湯は平和の象徴です。 | 一駄歩 |
| 92 | 暮風 | 初雪や爪弾きもるる向島 | 新　暦文 |
| 93 | | 冬晴れや走り出せない運動靴 | 蒼井憧憬 |
| 94 | | スイッチバックして箱根路の紅葉宿 | ひろ志 |
| 95 | | 冬の月深山の闇を森魔（もま）流る | 山川充 |
| 96 | | 朝刊を隅まで読むや初眼鏡 | いさむ |
| 97 | | 主の無き夕日に赤き帰り花 | 和田イチ子 |
| 98 | | 窓ぎわに挿し芽で冬を越す名草 | しーしー |
| 99 | | 義士の日や空は重たき雲を垂れ | かれん |
| 100 | | 玲瓏と冬満月の底光り | しんい |
| 101 | 癒香 | 突つ込めぬ惚けの話題や年忘れ<br>我が身と思う程面白い。 | 青木鶴城 |
| 102 | 音思 | 熱燗や呂律あやふき三軒目<br>忘年会の季節ならではの句。 | くるみ |
| 103 | | 蝋梅や駅弁開く展望台 | 高原ひろし |
| 104 | 恵 | 青い花には青い遺伝子冬銀河<br>遺伝子という遥かなものもの、永遠を思わせるものと冬銀河の取り合わせが良い。青を繰り返しているのも効果的。 | 森下山菜 |
| 105 | 春水 | 文鎮の紐はむらさき冬霞<br>対比している取り合わせが絶妙です。 | 岩本夛来 |

# 水明インターネット句会（選句・選評）　令和六年十二月

| | | | |
|---|---|---|---|
| 106 | | 裸木へヒマラヤ杉のシルエット | 松橋春水 |
| 107 | 彩香 | 鈍色の海辺にほのと石蕗明かり<br>冬の朝市の活気が季語により表現されリズムカル。 | 大越マーガレット |
| 108 | 楽一葉<br>高原霜里<br>かれん暮風 | 寒風やあばらに粗衣の仁王像<br>恐い顔してあばらに粗衣で寒風に立ち向かっている強がりさんなんですね。まるで自分のことのようです。仁王像の描写が秀逸、季語も効いている。北風を睨み付けるお姿が頼もしく。寒風と仁王像の取り合わせで、あばらと言ったことで凄みが増した。寒風が、仁王の厳しい姿を際立たせる。 | 後藤允孝 |
| 109 | 光雲2<br>凡士<br>彩香 | 朝市の売る人買ふ人息白し<br>輪島の朝市を思い出す、ここで魚や野菜を買い、傍の店で調理して食べる朝食が最高だった。冬の朝市の景に季語による活気が添えられて、リズムカル。 | 俳爺 |
| 110 | | 山茶花や花びらひとつ靴先に | 朝香 |
| 111 | | 身の内に蕾秘めたる冬芽かな | 龍野ひろし |
| 112 | 允孝<br>かげろう | 年の瀬や捨ててなほ捨て切れぬもの<br>捨てたい物はたくさんあるが、思い切って捨てられぬ。上五の年の瀬がいいですね。捨てられない物が多すぎますね。 | 荒一葉 |
| 113 | | 粉雪や動画手本にチェーン付け | 総太郎 |
| 114 | たか<br>朝香 | 地平まで拡がる冬田あかね雲<br>夕日に染まる冬田。雄大な景観が眼に浮かぶ。よい作品です。広々と拡がる冬枯れの景色とあかね雲がよくマッチしている。 | 染谷風子 |
| 115 | | 赤い靴捨てるモンロー浮かむ除夜 | 瞳人 |
| 116 | | 石蕗明りかくれんぼうの「まあだだよ」 | 岩清水彩香 |
| 117 | 楽<br>風舎 | 鳶集ふ手斧始や木遣唄<br>鳶と手斧始と木遣唄の三語で持っていかれました。よく情景がわかります。新年を寿ぐ気持ちが伝わってくる。 | 立野音思 |
| 118 | | 縄の香や徐々に闇へと雪囲い | 米山誠 |
| 119 | 高原<br>癒香<br>順一 | 崖氷柱眺め猿らの長湯かな<br>壮大な崖氷柱とホワカンとした猿達の映像の対比が素晴らしい。大歳時記とは勉強しがいがあると思いました。その大歳時記とにらめっことは。季語との相性で、惹かれるものがありました。 | 小林土璃 |
| 120 | かげろう<br>風舎 | 願はくは核なき世界煤払<br>被団協のノーベル平和賞受賞おめでとうございます。ノーベル平和賞受賞の被団協を詠んだか。人類の英知を信じたい。 | 平野楽 |

# 水明インターネット句会（選句・選評）　令和六年十二月

121　楽

縁側に舞ふ塵の綺羅小春の陽

小春日和の温かさが伝わってきます。塵の綺羅がいいと思いました。

みづる

122　光雲2　朝香

風巻ひて氷柱微かに奏でたり

風で氷柱が奏でる音を私も聞いてみたい。

酒井癒香

123　恵

冬枯れや街に溢るるジョンの歌

殺伐とした街に流れるジョンレノンのクリスマスソング（おそらく）。「戦争は終わった」と歌うジョンはこの世にはいず、この世から戦争もなくなってはいない。ジョンレノンが12月に射殺された事も思い起こさせ冬枯れの荒涼とした感じがうまく出ている。

ノルン

124　憧憬　し一し一　幹子

ファスナーを上げて木枯受けて立つ

その意気だ、下五にエール。寒さに対し、負けない心意気を感じました。

横井あらか

125

世界平和願いひ拝むは初日の出

岡本たか子

126　月を　ことは　来　多

佳月孝思弦人
允音六瞳

無駄遣い一つだけして歳の市

その一つで、心が豊かに。きっと嬉しい良い買い物ができたことでしょう。何を買ったのでしょうか？年の瀬に自分自身に対しての贈り物としての無遣い。いい句ですね。欲しいものが沢山ある今の時代、節制する気持をうまく詠んでいる。たまの無駄遣いは良いと思います。ひとつだけ、と。昔も今も庶民の暮らしとはそうしたものでしょう。

霜里

127　一駄歩

拍子木に白湯の差し入れ冴る夜

かげろう

128　誠　暦文

病みごとを柚子湯の柚子につぶやけり

柚子につぶやけるが良かったと思う。病み事を風呂の柚子につぶやく、、柚子は貴方の味方。

河野凡士

129　順一

菜園の発芽うながす初時雨

春に期待できる野菜でしょうね。何を育てていたのか知りたくなる句だと思いました。

渋谷きいち

130

際立ちて光あふるる冬の朝

寒立馬

131

エンディングノート探しの年用意

岡崎梗舟

132

持ち寄りのランチを狙ふ寒鴉

丸山マスミ

133

手を当つる背に時の襞冬暖か

絵夢

134　光雲2

鯛焼の湯気分かち合ふ星の丘

石関六弦

135

街師走腕に食い込むお買い得

ひでこ

# 水明インターネット句会（選句・選評）　令和六年十二月

136

石川順一

かしましき冬鳥駅の近くの木

137

佐藤幹子

春水
ひでこ

蜜柑出し話の続き聞くことも

楽しくも意味ありげな会話の様子が想像できます。こういう事もありますね。蜜柑の効用大。

138

川口聡美

ノルン

する程に雑用増える冬最中